

西国巡礼慈悲の道

西国第九番

興福寺南円堂

あまねく見る

貫首 多川俊映



仏教の創唱者・釋尊を、

仏教徒はかつて、——サツ

カ（釈迦）よ、あまねく見る人よ。と、呼びかけました。

お釈迦さまは、なにごと
も広い視野で見ておられ
る、そういうお方だとい
うのです。むろん、観音さ
まもまた「あまねく見る人」
で、その〈ものを見る目〉
〈ひとを見る目〉を、私た
ちが学ぶ。そのこともま
た、仏教信仰・観音信仰の

大事なしごとです。

その第一歩は、日常の私
たちの〈ものを見る目〉〈ひ
とを見る目〉が、いかに視
野が狭いものであるか、そ
れを深く反省することでは
ないかと思ひます。

ふりかえってみますと、
私たちには、なにごともし
つに分けて考える習性があ
ります。たとえば、善いこ
とと悪いこと、愛と憎し
み、そして、美しいものと
醜いもの。あるいはまた、

生と死もそうです。

このように私たちは、こ
とがらを大きく二つに分
け、そして、その片一方に
すり寄り、もう一方をない
がしろにしています。

——この世は総じて、好
都合と不都合だ。好都合を
求め、不都合を排除して、
なにが悪い。と、いわれる
かもしれません。

しかし、その好都合・不
都合も多くは、「こんにち
ただ今」といういわば一瞬
間の判断に過ぎず、——あ
の時、あれを捨てなければ
よかったのに。と、後に
なって惜しく思っても、そ
れこそ後の祭りです。

今という瞬間の好都合と
不都合という判断、そし
て、不都合を排除し好都合

だけを見ようとするのは、
「あまねく見る」見方から
あまりにも遠いのではない
でしょうか。

今日の好都合が後日の不
都合に、今日の不都合が後
日の好都合になるかもわか
らないのです。目先の不都
合を、不都合だからと排除
せず、大きく包容していく
心の広さを学びたいもので
す。そして、そこにこそ、
いわゆる心豊かな世界が展
開していくのではないで
しょうか。



西国第九番

こう ふく じ なん えん どう
興福寺南円堂ほっそう
法相宗大本山

御本尊／不空絹索観世音菩薩（国宝） 開基／藤原内麻呂公・冬嗣公

はるのひは なんえんどうに かがやきて
みかさのやまに はるるうすぐも



✳ 主な年中行事 ✳

正月2日	春日社参
2月節分	追儺会（東金堂）
2月15日	涅槃会（本坊東室）
4月8日	仏生会（南円堂前庭）
4月17日	放生会（一言観音堂）
7月7日	弁才天供（三重塔）
10月第1土曜日	塔影能（東金堂前庭）
10月17日	大般若経転読会（南円堂）
11月13日	慈恩会（宗祖忌、仮金堂）

観音風光

- ◆当山では、現在《天平の文化空間の再構成》を合言葉に、境内の整備と中金堂の再建事業を進めています。
- ◆瓦の御寄進・部材の御寄進・散華写経の御奉納などを申し受けております。
- ◆《平成の文化空間の再構成》に、ふるって御参加ください。

ご詠歌の意味

かつて春日社と興福寺は一体で、南円堂ご本尊は春日社一宮の本地仏ともいわれ、尊崇される。「はるのひは なんえんどうに かがやきて みかさのやまに」はその意味。この神仏のご威光を大きく身にうけたならば、私たちを時に覆う薄雲・むら雲も、やがて晴れ上ってゆく。

〒630-8213 奈良市登大路町48 <http://www.kohfukuji.com>

TEL 0742-22-7755（寺務所）・24-4920（南円堂納経所）／FAX 0742-23-1971（寺務所）

納経時間 午前9時～午後5時

但し、近郊信者各位のお参りのため、納経所を午前5時～午後9時まで開けていますので、少人数の納経は、時間外でも受け付けます。

西国三十三所札所会ホームページ <http://www.saikoku33.gr.jp>

西国霊場にご参拝の時は納経帳や白衣を忘れずにご持参ください。2回目以降はご参拝の印として重ねて納経印をいただきますよう。